

整理番号	02-1112
区分 (事務局記入欄)	■臨床研究(□受託・共同 ■院内) □その他 □医薬品 □医療機器 ■その他

医学研究に関する情報公開文書

西暦 2026年 6月 9日

研究課題名	小児における卵巣脱出鼠径ヘルニアの手術待機中の合併症と鼠径ヘルニアの自然経過に対する後ろ向き観察研究
研究実施期間	開始 西暦 2026年 7月 1日 ~ 終了 西暦 2028年 3月 31日 (予定)
研究の対象となる方 (予定症例数)	2013年1月~2025年12月に当院を受診し超音波検査で鼠径ヘルニアと診断された方。 ただし診断時の年齢が16歳未満の女性の方に限ります。 (予定症例数：200例)
研究の目的・方法	鼠径ヘルニアは腹腔内から鼠径部に臓器が脱出する疾患です。腹腔内へ脱出臓器が戻らず臓器の血行障害などが生じた場合は緊急手術が必要になります。そのため一般的に鼠径ヘルニアを認めた場合、予防的に根治術を行います。 女児の鼠径ヘルニアのうち、脱出する臓器が卵巣である卵巣脱出ヘルニアは15~30%程度とされます。症状が出てくるのは3ヶ月未満の乳児早期が多く、血行は問題ないものの脱出した卵巣を腹腔内に戻せない場合がしばしばあります。そのような場合でも成長とともに卵巣が自然と腹腔内に戻っていくケースも多く経験されますが、一方、脱出した卵巣には捻転の危険性があり、医療機関によっては緊急手術または早期の手術を予定されることがあります。ただし、新生児期から乳児早期は麻酔合併症の危険も懸念されるため、当院では臓器に血行障害が生じる懸念がある場合を除き、体重が8kg以上になるまで待機し、予定手術を行っています。そのため卵巣脱出ヘルニアの場合、症状が出てから予定手術が行われるまで数ヶ月程度の待機期間が生じます。2013年以降に当院を受診された卵巣脱出ヘルニアの方のカルテ、手術待機期間等を検討し、手術待機期間中に卵巣捻転などが生じていなかったかを調べます。これにより安全に手術まで待機できていたかがわかり、手術時期の決定に有用と考えられます。また緊急手術を必要とする場合は、当院のみならず高次医療機関での治療も検討されますが、待機手術が可能であれば、居住地域で治療継続が可能と考えられます。
研究に用いる試料・情報の種類	情報：病歴、治療歴、生年月日、体重、超音波所見、手術所見等のカルテ情報
問い合わせ先	・ 本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。 ・ ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。 ・ また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には、研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。 地方独立行政法人市立東大阪医療センター

整理番号	02-1112
区分 (事務局記入欄)	☒ 臨床研究(☐ 受託・共同 ☒ 院内) ☐ その他 ☐ 医薬品 ☐ 医療機器 ☒ その他

	研究責任者：小児外科・主任医長 松浦 玲 住所：大阪府東大阪市西岩田三丁目 4 番 5 号 TEL:06-6781-5101
--	--